

---

## 私を変えた独り言

東京都立瑞穂農芸高等学校 畜産科学科 3年 比留間 瑠海

---

「うちにも削蹄師、来てくれないかなあ。」

夏休みに、インターンシップで行った牧場で、作業中に聞こえた牧場主さんの小さな独り言が、削蹄に興味を持ったきっかけです。

その牧場は、牧場主さん1人で肉牛200頭を育てる肥育農家です。蹄が長くなった牛を見ていたところ、ここでは頭数が多いし、1人で世話をしている時間が無くて大変だから、削蹄はしていないと言われました。今まで、削蹄をして当たり前だと思っていた私は、少し歩きづらそうな牛を見ながら、削蹄ができない牧場もあるのか、と驚きました。そんな会話の中で聞いた独り言が頭の中に残った私は、今まで漠然と見ていた学校の牛の削蹄を意識して見ました。

牛を枠場に入れて、保定し削蹄していく一連の動作はとても速く、無駄が一切ありませんでした。特に削蹄鎌を使い蹄の底を薄く削っているところに驚きました。削蹄師さんが、「やってみる?」と聞いたので、緊張しながらも削蹄を試みました。

「あの…、全然削れません。」

削蹄師さんは簡単そうに削っていたのに、同じ鎌とは思えないくらい刃が入っていかず、全く削ることができません。私が苦戦していると

「削ろうと思えば思うほど、刃は通らなくなるから、思い切ってやってみな。」

と言われたので、落ち着いて、「失敗してもいいや」というくらいの気持ちで鎌を動かしました。すると、蹄をすると刃が通り削蹄をすることができ、気持ちを変えただけでこんなにも削れるようになるのかと、とても感動しました。削蹄に興味を湧いた私は、後日、削蹄師さんについていき、仕事を見せてもらいました。学校とは違い、見学した牧場には副蹄の大きな牛、片方の蹄にゲタという板をつけて高さを調整している牛など様々な蹄を持った牛がいました。そんな牛達の歩き方を見たり、蹄を見て悪い箇所の治療を行ったりしていて、削蹄以外にも蹄病の予防や治療をしていると知りました。

「蹄は、体型や乳量とは違って、最後に評価されやすいんだけど、長く生きて沢山生産する為には、実は一番大切な部位だったりするんだよね。」削蹄師さんのその言葉に、ただ蹄を削っているだけではない、牛にとって重要な仕事だという思いのようなものを感じました。

その日から、削蹄のことが頭から離れず、時間があれば削蹄について調べたり、牛の蹄を観察してみたりしました。しかし、調べたりするだけでは分からないことが沢山あり、専門的な知識と確かな技術を持っていないとできない仕事なんだと思い、それと同時に、自分も削蹄師になって削蹄をしたいと憧れるようになりました。

---

削蹄師になるには、大きく分けて2つの方法があります。1つ目は削蹄を専門とした会社に入り、削蹄の注文を受けて、牧場へ行き削蹄をするというものです。2つ目は削蹄師に弟子入りをして、削蹄を教えてもらうというものです。私は、弟子入りをしてから削蹄師になろうと思っています。なぜなら、削蹄を教えてもらいながらそれ以外の時間は、牛の世話などの他の仕事ができるし、なにより削蹄師さんに一对一で厳しく細かく削蹄のことを教えてもらうことができるからです。

私が削蹄師になったら、実現させたい夢が3つあります。まずは、自分がお世話になった牧場へ削蹄をしに行くことです。私が牛と出会って大好きになるきっかけをくれた学校の牛や先生方、夏休みにインターンシップで、仕事内容や牛に対することを沢山教えてくれた牧場などへ行き、成長した自分の姿を見てもらったり、感謝の気持ちも伝えたいと思っています。次に、全国各地の牧場を巡りながら、様々な種類の蹄を削蹄して、技術や知識を上げていくことです。そして、どんな状況、どんな牛にも対応できる削蹄師を目指します。最後に、牧場を経営している人と結婚して奥さんになり、自分の牧場を持ったら、その牛達の削蹄を自分の手で行いながら、牛達や経営をずっと支え続けていくことを実現させたいと思っています。

私はまだ削蹄師に弟子入りするという、削蹄師へのスタートラインにも立つことができていません。しかし、弟子入りしてから少しでも自分自身の役に立つようなことを勉強しています。それは、削蹄に関する知識をつけておくことと、単独保定の練習を行うことです。削蹄に関する知識は、削蹄師になってからはもちろん、削蹄師になるための認定試験のなかでも必要になってくるものなので、専門的で難しく、覚えることも多いですが、削蹄の本を読んで勉強をしています。単独保定の練習は、試験の際に2人1組になって枠場を使わずに保定することが求められます。その時までには牛を扱うことに慣れるために、学校にいる牛に協力してもらい練習しています。性格や体型の違いによってできる牛とできない牛がいたり、足を踏まれたり蹴られそうになったりして、まだまだ確実に保定をすることはできていませんが、削蹄師さんの保定の方法をよく見たり、本に書かれていることを実践したり、先生にアドバイスをもらいながら、日々練習をしています。

私は今まで、将来の夢が沢山あり、なかなか1つに決めることができていませんでした。しかし、学校で削蹄師という職業と出会い、将来の夢をしっかりと決めることができました。高校卒業後は、酪農や肉牛などを学ぶことができる大学校への進学を目指しています。そして、削蹄に関する知識や技術を更に向上させていきたいと思っています。今まで以上に求められることが増えると思いますが、どんな状況にもくじけず、食らい付いていきます。

「削蹄は、牛の動きで大怪我をすることもあるし、糞尿をかぶることもある、決して安全とは言えない大変な仕事だよ。」これは、削蹄師さんに仕事を見せてもらった帰り道での言葉です。

確かに、女性の削蹄師さんは少なく、力を必要とする場合もあります。正直なところ、私でも削蹄師としてやっていけるか不安もありました。しかし、「うちにも削蹄師、来てくれないかなあ。」という独り言が頭に残っていたので、大変な仕事でも将来、絶対この仕事に就いて削蹄をしたい!とすることができました。これからも、この気持ちを忘れずに、削蹄師になって自分の夢を実現できるように、前進していきます。

ご本人による朗読を  
こちらからお聴きになれます。

